



平成 25 年 10 月 21 日 第 3 卷 (第 12 号)

発行： 東京都新宿区住吉町 8-20 四谷チンゴビル 2F  
災害支援チーム TEL (03)3351-5038  
FAX (03)5366-1058  
mail: dsstsw@jaswhs.or.jp

\*\*\*\*\*  
**TOPICS**  
\*\*\*\*\*

1. 災害支援チーム主催の講演会が 10 月 19 日(土)に無事終わりましたのでご報告  
致します。

2. 石巻市の復興住宅への事前登録に関する説明会への支援活動のため協力員さ  
んへ緊急募集を行いました。みなさまのご応募をいただいて 10 月、11 月は締切  
とさせていただきます。みなさまのご協力に感謝申し上げます。

②「東日本大震災医療ソーシャルワーカーの支援のバトン I」



「東日本大震災医療ソーシャルワーカーの支援のバトン II」

好評発行中です。活動継続の為の寄付になっています。皆さま、ぜひご購入のうえご  
覧ください！！

※詳細は、“3. 災害支援チームからのお知らせ”をご参照ください。

\*\*\* 目次 \*\*\*

1. 石巻での活動の様子（概要）
2. 石巻での活動の様子（FaceBook から引用）
3. ピーチサロンでの出前講座を行って
4. 災害チーム主催講演会報告記
5. 被災地支援活動報告書
6. 災害支援チームからのお知らせ
7. 事務所より

\*\*\* 1. 石巻での活動の様子（概要） \*\*\*

\*\*\* 9/18 久保木 美由紀（現地担当）

社協エリア主任会議参加：復興公営住宅の登録申請についての詳細の説明がありました。

\*\*\* 9/20 久保木 美由紀（現地担当）

桃生、中津山団地、地区集会に参加：9月26日ピーチサロンに向け、団地の雰囲気を確認するとともに住民の方たちと交流をはかる。

開成13団地カリタス主催お茶っこに参加：手芸をしながら、住民の方たちと交流をはかる。

\*\*\* 9/22 久保木 美由紀（現地担当）

復興公営住宅事前登録会へ参加する。

\*\*\* 9/24 久保木 美由紀（現地担当）

ケース対応：担当ケースについて訪問を行い近況等についてお聞きする。

\*\*\* 9/25 久保木 美由紀（現地担当）

復興住宅課との打ち合わせ：事前登録会への参加要請がある。

ケース対応：前回支援以降、社会交流や見守り体制ができている状況であり、生活課題はないため、終結とする。

\*\*\* 9/26 久保木 美由紀（現地担当）

桃生地区、お茶っこ café ピーチサロンに参加：「知って得する病院活用法」とタイトルにて、MSW の仕事や役割について住民の方へ説明をする。よくある事例を芝居形式にして、楽しく分かりやすく伝える

\*\*\* 9/27 久保木 美由紀（現地担当）

ケース対応：復興公団住宅の申請援助を行う。

\*\*\* 9/28 久保木 美由紀（現地担当）

支援者のために箱庭あそびに参加して：カウンセリング統合研究所主催、東北福祉大学福祉心理学部教授渡部純夫氏を講師として支援者のための「箱庭あそび」ワークショップが開催され、12名の参加者が集まる。当協会からは協力員山橋のみ参加。参加者の職種としては、病院心理士や地域支援スタッフなど様々である。ワークショップでは“子どもの心に戻って遊ぶ、楽しむ”ということが目的とされる。第1セッションは数名のグループに分かれその中で各自箱庭作成、第2セッションは参加者全員で箱庭を作成（順番に並び一人一つずつアイテムを置く、を繰り返す）、その後振り返りを行い終了となる。

災害支援チーム本部会議が開催される。

\*\*\* 9/29 久保木 美由紀（現地担当）

ケース対応：ケースフォローの為連絡を取るなど、面接にてその後の様子を確認する。

\*\*\* 9/30 久保木 美由紀（現地担当）

RCIとの勉強会へ参加：「あらためて家族を理解する」参加者17名。利用者それぞれの「家族」を理解して関わる事の重要性を、コミュニケーション技法の演習も交えて学ばせていただいた。今後の相談援助に反映させていきたいと思う。

ピーチサロン振返り：MSW が話している最中から質問されるなど興味を持って住民の方が参加された。目標であった困った時に相談できる相手として MSW の認知はされた。別の仮設でも同様の勉強会をと依頼あり。勉強会後の住民の方との交流時に、桃生以外で被災された方々は震災時に大切な方を失くされ、今も気持ちが沈む時があることを話される。今後も寄りそっていくことが必要だと感じた。

\*\*\* 10/1 久保木 美由紀 (現地担当)

復興公営住宅事前登録会:相談員と共に窓口と同席し、住民の状況、思い等を情報収集する。午前中の相談者は10名。内、MSW 介入は1名。相談者少なく、込み合う様子も見られなかった。市役所や出張登録会に来られない方にSWのニーズがあると思われる。声掛け、訪問に切り替える必要性あり。復興住宅課、関係機関と相談する。

\*\*\* 10/7 久保木 美由紀 (現地担当)

復興住宅事前登録大橋団地1日目:申請・相談者30世帯。午前2名午後1名協力。主相談者のアシスト。申請団地選定の相談、付随する経済・生活問題への聞き出し、助言。高齢単身者も多く、記入援助、添付書類の説明、不安への対処などが今後必要である。

\*\*\* 10/8 久保木 美由紀 (現地担当)

復興住宅事前登録大橋団地2日目:申請・相談16世帯。午前6名午後10名協力。午後に訪問2軒。エリア主任の要請。午前中民生委員の付添いで難病歩行不自由の方来談、市職員も交え相談にのる。

\*\*\* 10/9 久保木 美由紀 (現地担当)

ケース対応:経済的、子供の心の問題等が予測されるため継続して支援を行う事となる。本人たちの気分転換や信頼関係構築に向けて今後定期訪問予定。

\*\*\* 10/10 久保木 美由紀 (現地担当)

復興住宅事前登録会への参加:相談への来所者への支援を行う。

\*\*\* 10/11 久保木 美由紀 (現地担当)

復興住宅事前登録会への参加:相談への来所者への支援を行う。

RCIとの打ち合わせ:中高年の男性向けイベント。日程変更:10月24日(木)→31日(木)へ変更。次回は「芋煮会」に決定。

\*\*\* 10/14 久保木 美由紀 (現地担当)

復興住宅事前登録会への参加:盛岡中央公民館での開催参加を行う。石巻市外の事前登録会には来所者数が少ない事が気にかかる。

\*\*\* 10/15 久保木 美由紀 (現地担当)

復興住宅事前登録会への参加:外国人への支援も今後必要となる。煩雑な手続きを充分理解してもらえよう検討する。

\*\*\* 10/16 久保木 美由紀 (現地担当)

台風の為支援活動にも影響がある。保健師の方より MSW 介入はもっと必要であるとの依頼。協力員の必要性を痛感する。

\*\*\* 10/17 久保木 美由紀 (現地担当)

事前登録会について協議:周知できている部分も多いが、まだ知らない方も多。今後の対応について協議を行った。

\*\*\* 10/18 久保木 美由紀 (現地担当)

RCI との勉強会:参加者8名グループの中には葛藤がある事、自分と他者の強み、考え方が違うことに共感する事等学んだ。人の発する言葉や非言語にもっと敏感になり、その人の気持ちを察知し受け止めることがなにか問題への気づき、より良い関係づくりに繋がるとの感想有。RCI メンバー同士のサポート力や活動の意味づけを再認識し、今後の活動に生かすことができる研修であった。

## \*\*\* 1. 石巻での活動の様子 \*\*\*

\*\*\* 10/3 畑中良子 (現地担当)

石巻赤十字病院が重症患者のもとに医師や看護師が駆けつけるドクターカーが本格的な運用が始まった。石巻市は平成 17 年に合併し、市の面積は約 556K m<sup>2</sup>となった。半島などもあるのでとても広い。石巻市内では救急病院が3件。近隣の市町村を合わせても6件という数だ。今までは救急車が到着してから病院に到着するまで 40~50 分かかかる地域もあったと聞く。(実際はもっとかかる地域があるかもしれない)そんな地域にとっては、朗報となるのだろうか? 料金の一部が患者負担との事だが、少しでも住民の方の安心に繋がりますように。

\*\*\* 10/6 畑中良子 (現地担当)

午前7時10分。サイレンが鳴った。

「沿岸に大津波警報が発表されました。ただちに避難せよ。」のアナウンス。

「津波の到達予想時刻は7時40分。ただちに避難せよ。」

今日は石巻市で防災訓練があった。避難所では各区長さんが配給、衛生、生活責任者を決めた。各町会でも役割を決める。配給担当、衛生担当、生活担当。おにぎりの配給。体調やけがの有無。

訓練を実施して色々な質問が出た。実戦さながらの訓練。

災害はいつかではなく、必ずある。平時に出来ていない事は非常時には出来ない。訓練を繰り返し、修正をし、安全で確実なシステムを作っていく。石巻市では災害に強い情報連携システム『ORENGE』を導入した。高齢者やこのシステムに乗らない人をどうするのか？もちろん、検討されているだろう。デジタルとアナログ、良さと悪さがあるがどちらも必要。

\*\*\* 10/7 畑中良子（現地担当）

今月から新たな事業が始まった。

9月17日～11月29日までの期間で、復興公営住宅への事前申し込みが行われている。そして、市役所本庁、仮設の拠点センター、出張登録所等毎日、数か所で行われている。そこにわれわれが同席し、生活課題を抱えている方にその場で介入する。今回の事前申し込みで復興住宅の発注を行うこととなっているそうだ。もちろん、その場に来れない人もいる。手段がない、気持ちがない、気持ちはあるが、わからない・・・etc. そんな方たちのお話をゆっくり聴いて、これからの生活を一緒に考えていく。その方の立場になって。

そこで、緊急募集です!!

全国のソーシャルワーカーさん、一緒に活動しませんか？活動の詳細については協会 HP をご覧ください。みなさまの力が必要です。現地で待っています。よろしくお願いします。

\*\*\* 10/8 畑中良子（現地担当）

先週の土日(5日、6日)と「子どものまち・いしのまき 2013」が行われた。

このイベントは「子どものまち」という場所で子どもたちが実際に仕事に就き、働く。お給料をもらい、好きな物を買って、楽しむ。実際の仕事に興味を持ってもらうことと社会の仕組みを学んでもらう目的がある。今回の開催は昨年に引き続き、2回目。受付前には行列ができるほどの人気ぶりだったとの事。

子どもたちが夢を持って、色んな事に挑戦する姿は素晴らしい。参加した子どもの母親に話を聞くことができた。彼女は自宅へ戻ってからその日の出来事の話が尽きなかったそうだ。自分が作ったものやしたことに対して、お礼を言われた事がかなり嬉しかった様子。

子どもたちが安心して暮らせるまちに。

(興味がある方は子どものまち・いしのまきの Facebook をのぞいてみてください。素晴らしい子どもさん方の笑顔が溢れています。)



\*\*\* 10/11 畑中良子（現地担当）

あの日から2年と7ヶ月が経った。いつもと変わらない一日、そして明日へ繋がる一日。みなさんはどんな風に過ごされたでしょうか？

「ラポールヘア・グループ」が、第27回人間力大賞の経済産業大臣奨励賞と復興創造特別賞を受賞した。被災地の雇用促進に実績があったことが評価されたとの事。

この会社では子どもを持つ母親たちが働きやすく、客も利用できるようにと、各店舗に無料託児所を設けて保育士を常駐させるなど環境を整備しているという。大人が働く姿を子どもが見て、色んな夢を描いていくのだろう。ソーシャルワーカーには馴染み深い「ラポール」というワード。信頼関係を築く大切さはどの業界でも当たり前に必要な事。相手の事をよく見て、考え、行動していく。そんな当たり前の事を毎日続けて行くと信頼へと繋がる。

今、当協会で行っている復興公営住宅の事前登録会での支援もそうだが、一つずつ、丁寧に、その方の生活を考えていく。

\*\*\* 10/15 畑中良子（現地担当）

今朝、午前6時2分頃、震度3の地震があった。今回は少し長く感じた。（現地はみんな大丈夫です。）今日の石巻は今夜から明日の午前中にかけて接近するであろう台風26号の対策をたてている。今日の夕方には明日の学校は小、中、高ともに休校となった。

交通機関も飛行機をはじめ、新幹線、在来線ともに欠航や本数を減らすなどの対応をとっている。

「10年に1度。」と言われるくらい的大型台風。雨量もかなり多いと予想されている。川の増水や氾濫も考えらる。今朝は地震で今夜から台風。自然現象なので逆らえないが、対策はたてられる。災害時に備えてしっかりと準備をしよう。

### \*\*\* 3. ピーチサロンでの出前講座を行って \*\*\*

石巻現地 畑中 良子

平成25年9月26日、住民サロンの場で発表をする機会をいただきました。『病院の上手な使い方』というテーマで、医療ソーシャルワーカーがどのような役割か、を伝える事が目的でした。

前日の夜にはどのような内容でプレゼンテーションを行うか、どのようにすれば伝わりやすいかを話し合いました。今回は“分かりやすさ”を重視し、病院でよくある相談場面の寸劇を行う事としました。現地の3名と一ヶ月の長期協力員1名に、大阪からの協力員2名と兵庫県からの協力員1名が合流し、計7名の劇団を結成しました。ナレーション、患者役、家族役、ソーシャルワーカー役を立て、“分かりやすさ”をテーマに内容を練りました。

シーン1では医療費の支払いが困るケース、シーン2は在宅復帰を希望しているが、ADLの低下があり、その不安をどう解消していくか？について、を取り上げました。

住民の中で医療ソーシャルワーカーを知っている人は1名だけで、あまり身近な存在ではない事が分かりました。しかし、説明や寸劇が始まるとみなさん、真剣な表情ですごく熱心に聞かれていました。「限度額認定証」の話に及ぶと、「こういった場合はどうなるのか？」など、質問もあり、理解を深めてくださったように思います。また、桃生地区の地域包括支援センターの社会福祉士の方にも飛び込みで寸劇に参加してもらおうと、「あ、〇〇さんに相談すれば良いんだ。」と、さらに地域でもソーシャルワーカーがいるという事を認識してもらえたように感じました。

今回は初めての試みでどのようにすれば、住民の方に受け入れられるのか？興味を持って

らえるのか?を考えました。今後もソーシャルワーカーを身近な存在に感じてもらい、「いつでも相談できる場所」と覚えてもらえる事を目標に活動を行います。今回、社会福祉協議会をはじめ、地域の支援団体の協力のもとこのような場をいただくことができたことを感謝します。ありがとうございました。

## \*\*\* 4. 災害チーム主催講演会報告記 \*\*\*

### 災害チーム主催講演会報告記

西田知佳子

10月19日は台風のせいか東京は朝からどんよりと重い雲に覆われていたが、信濃町駅前のビルの5階は早くから熱気にあふれていた。石巻の宮城・長ドクターと西片医療福祉研究会山田氏の講演会が開かれた。

講演会の直前に大島の元町では台風による大きな被害を被っていた。予期せぬ大災害がいつでも起こりうる今、私たちはどのような心構えで日常を過ごさなければならないか御三方の講演をきいて考える、というのが災害チームの熱い思いであった。ところがこの思いはホームページやファックス通信では協会員に届かなかったようで、申し込み開始から2週間たっても申込者は一桁だった。災害に対する備えは皆さん十分ということなのだろうか。直前の協会関係者の宣伝のおかげで当日参加者は60名近くになったが。

さて講演は最初に山田氏が2011年4月から9月まで現地の責任者としての活動をふまえ、医療ソーシャルワーカーだからこそこできること、外部からの応援のソーシャルワーカーの重要性を話された。そして復興期の今、まだ支援を必要としている方々があり、その取り残されている状況の中で、ソーシャルワーカーの他機関・他職種とチームを組んで個別支援が必要とされていることを訴えられた。気を付けてほしいこととしては、全国からボランティアで駆けつけるソーシャルワーカーが短期間の支援に効果や成果を求めないこと、地元の日常のペースを崩さないことと釘を刺された。

石巻の宮城クリニックの院長宮城先生は大震災当日のスライドを見せてくださった。先生のクリニックは道路を挟んでご自宅の向かいにあるのだが、地震の後近くを流れる川が氾濫して水が1メートル以上上がってきて、ディケアの患者さんやスタッフそして避難途中の子ども連れの家族20数名がクリニックの2階に避難し、水が引くまでの3日間避難生活をおくられた。小さい子どもが寒さをしのいでタオルにくるまりながらもVサインを出している。お手洗いがすぐに使えなくなりその時の工夫や、食料をご自宅からロープにつるして送ってもらい、量を増やして皆で分けたという日常生活の具体的なこと、学校が始まる前に各学校の先生方へ子どもたちとの向き合い方をお話しなされたことなど胸が詰まるお話が続いた。災害時必要な最低限のセットも披露してくださった。谷亀先生たち、全国の同窓生が宮城先生の依頼にこたえてそのセットを山のように送ってきてくれたこと、それを先生のところに応援に来たボランティアが車で各地に運んだこと、さらに日赤に全国から送られてきたままになっていた物資を、各地域のイベントに合わせて皆に配ったことなど臨場感あふれる報告が続き、最後に精神科治療に関してはここにきて本当のニーズが高まってきている。包括的支援体制を作ってニーズに応えたいが手探りの状態と苦衷を語られた。



昼食をはさんで開成クリニック所長の長先生は「石巻市における『新しい東北の創造』先行実施に向けて(案)」というテーマでお話し下さった。長先生は石巻に一刻も早く赴任したかったとおっしゃり、「神戸の時は高齢化社会だったが、石巻が全国の超高齢化社会のモデルとなるという理念を持って開成診療所を立ち上げた。日本でも健康格差が出てきており、それを是正するには福祉的支援が大切で、それを行うのがソーシャルワーカーの役割」と何度も強調された。長先生はソーシャルワークをかなり深く追及されていて、ソーシャルワークを医療現場でも駆使なさっている。それだけに私たちソーシャルワーカーが地域や病院で独自性を発揮しないというのが歯がゆく思われるのだろう。「超高齢化の社会では福祉が充実すれば医療の負担はかなり減る。」と力強くおっしゃった。熱心に耳を傾けていたソーシャルワーカーは、長先生の期待に応えねばという気持ちにさせられたと思う。

そのあとは3つのグループに分かれてワールドカフェ方式で御三方の講演の内容を振り返り個々人の思いを語ってもらった。25分で1テーマと時間が限られており、どのテーブルもまだまだ話足りないという雰囲気だったが、各テーブルのまとめを現在石巻で常駐してソーシャルワークを行っている久保木氏・富永氏・畑中氏が行い、和やかな中終了となった。

## \*\*\* 5. 被災地支援活動報告書 \*\*\*

大分県医療ソーシャルワーカー協会  
災害ソーシャルワーク研究班 谷山香菜恵

### 1. はじめに

災害支援以前に、ソーシャルワークが何かもまだ良く分かっていないようなMSW2年目の私に何ができるのか、活動の前はそればかりが頭にありました。直前まで、自分の選択を後悔さえしていました。しかし、そんな私が実際に石巻を訪れ、さまざまな人々と触れ合うことで、「また行きたい」と感じ、自分にも「何かできる」と信じようとしています。支援活動に参加し、耳で聴いて目で観て、舌で味わって心で感じて、色々なことを教わりました。活動の内容を簡単ではありますが、ご報告させていただきます。

### 2. 活動内容

#### ■ 仮設住宅訪問

石巻市内にある仮設住宅をまわり、MSWに関するポスターの張替え

#### ■ 継続ケース訪問

継続して支援している対象者宅を訪問し面接必要に応じて他機関へのリファー・連携など活動後には次回訪問者に繋ぐための記録

#### ■ 仮設住宅入居者ケース検討会議への参加

石巻市では、保健師、被災者保険活動支援業務者(看護師)、地域包括支援センター、障害福祉事業所、社会福祉協議会、SW等が参加し、仮設住宅入居者のケース検討会議を開いている。ここでは、各々担当している人や気になる人などについて報告や相談が行われ、「こういうことが起きた。今後継続的にみていく必要ありそう」、「ここはこうするといいいのかも」、「今後こういう取り組みをやりそうと思っている」などというように情報交換・共有、ディスカッションの場となっている。

#### ■ 現地担当者との意見交換や情報共有

車での移動時、食事の際など現地担当者との意見交換や情報共有

## ■石巻市内散策

石巻市内の被害の大きかった地域を中心に散策

### 3. 感じたこと・学んだこと

#### ■まずは“知る”ということ

災害支援ニュースに「まずは現地のことを知ってください」と掲載があった。まずは知ることが大切だと分かっているけど、内心は本当にそれでいいのかという迷いもあった。しかし、実際に現地の声を聴き、街並みを観て、現地に来たからこそ感じるこのできたことが多くあった。すべては知ることから始まるのだということを強く感じた。

#### ■表面化してきた問題と元々あった問題の関係性を評価する

仮設住宅の隣の住民の物音が気になって仕方ないという人がいた(実際の物音は少ない)。実はその人は家族関係が悪く精神疾患を患っているという背景があり、物音に過度に反応してしまふ精神状態であった。SW が家族関係や精神疾患へのアプローチをした結果、その人が次第に物音を気にしなくなった。問題を個別にアプローチするのではなく、問題と問題の関係性を評価することが総合的な支援へ繋がるということを改めて学んだ。そして、震災があったからこの視点が生まれたのではなく、それは私たちの普段のソーシャルワークから繋がっているのだということ。

#### ■住民の“石巻への想い”を大切にす

社会資源が徐々に増えてはいるが、地元にはない社会資源も多数である。そこにはないから他の地に行けばいいのではない。“石巻の〇〇に行く”ということに意味がある人々もいる。住民の地域への想いを地域へかえすことが大事である。

#### ■社会資源を繋げてより効果的なネットワークをつくる

「震災後2年半が経ち、色々な取り組みが始まり、社会資源も増えた。各々は素晴らしいのに、それぞれが繋がっていない。」と言う現地の方。社会資源は開発して終わりではない。また、社会資源はニーズに応じて変容していくものである。私たちは、社会資源の本質を理解し、それぞれがより機能的になるよう社会資源同士をコーディネートする必要がある。

#### ■仮設住宅入居者の自立支援・コミュニティ移行支援の必要性

現在、現地では仮設住宅から復興公営住宅への移行期を迎えている。仮設住宅は間取りこそ狭いが家賃はなく、世帯によってはかえって都合の良い場合もある。現在、1000戸ほどの復興公営住宅が現実的となっており、仮設住宅入居者へ復興公営住宅の案内をしているが、中には仮設住宅は家賃がないため、復興公営住宅への転居を希望しない人々もいるという。経済的な理由だけでなく、2年半が経過し、仮設住宅で形成されてきたコミュニティを移るということに不安もあるのである。住民にとって、非常に悩ましい選択を強いられている状況である。しかし、仮設住宅にはずっと入居できない。私たちは、そういった不安を抱える人々の想いを理解し寄り添いながらも、自立支援の視点をもってかかわることが求められているのではないかと感じた。そして、その支援には多くのマンパワーが必要になるということを感じた。

#### ■人々は生かされているのではなくて生きているのだということ

仮設住宅は、作りが簡素であり段差も多く、バリアフリーどころではない状態であった。玄関も簡単な作りであった。しかし、漁師をされていたのか大漁旗が飾られている玄関や子供の三輪車や小さな靴が置いてある玄関、植物や野菜を育てている玄関など、それぞれがここで生きているという証を感じることができた。確かにここで人々は生きているのだと感じた。

## ■背伸びをせずに一つひとつ進むことが大事

被害の大きかった地域を歩いた。何もなかった。今、私が歩いているこの地面の下に、もしかしたら誰にも見つけてもらえないで眠っている人もいるのかもしれないと思うと、足がすくんでしまった。しかし、一步一步踏みしめて歩いて、一步一步が無駄にならないように歩いた。震災にかかわらず、一つひとつ、一日一日、一人ひとりとじっくり向き合うことが大事なのだと思う。

## ■SWの機能を発揮するためには、SWを知ってもらうことが重要

仮設住宅入居者ケース検討会議終了後、保健師の方よりSWへケース介入依頼があった。そのケースは非常に複雑な関係性と問題を抱える困難ケースであった。その際に保健師の方が言っていたことが、「今までSWさんにどういふことをお願いしたら良いのか分からなかった。何をしてくれる人たちなのか知らなかった。少しずつわかって来た」ということである。これは、私たちの普段においても、依然として耳にする言葉ではないかと思う。SWの機能や役割を発揮するためには、まずSWを知ってもらうということが重要なのではないのだろうか。私たちが現地のことをまず知ろうとしたように、お互いが歩み寄っていくことが必要なのだと思う。

## ■災害弱者をどう捉えるか

一般的に災害弱者と呼ばれる高齢者や障害者、子供や母子などばかりが、災害弱者なのではないということを感じた。現在の若い世代は便利な生活が当たり前であり、仮設住宅などでの不便な生活になかなか適応できない人々も多いという。かえって、昔不便な生活が当たり前だった高齢者の方が仮設住宅等での生活に適応できている現状もあるという。災害弱者とは、社会一般的に定義されるべきものではなく、その時その場所にいる人々すべてが災害弱者となり得るのだということを感じた。支援の狭間に埋もれていく人々がないように、私たちは広い視野で多面的に物事をみていく必要がある。

## ■被害の有無や大小など目に見えるものだけで判断できない、判断してはならない

震災において、自宅も家族も友人にも被害のなかった子供たちもいる。しかし、そのような子供たちは被害のあった子供たちに比べると、好きなことを我慢しなければならないというような意識が浸透してきているという。今、現地では、抑圧された状況下にいる子どもたちへの影響が懸念されている。被害の有無や大小など目に見えるものだけで、判断することはできない。

## 4. まとめ

活動参加前、私は「石巻に行くのだ」「被災地へ行く」「被災者を支援する」というように、意識をしすぎている部分がありました。確かに、甚大な被害をもたらした今回の震災は、災害支援の視点抜きには考えることができませんが、現地に住む人々は被災者である前に、一人の住民であり、母親であり息子であり、おばあちゃんなのです。ケース訪問をした際に色々なお話を伺いましたが、どれも日常を切り取ったようなお話で、訪問を終えた後、対象者を



“被災者”として見ていなかったことに気づきました。それほど震災の影響が少しずつ落ち着いてきたということかもしれませんが、私たちが普段から大切にしている価値と同じであり、関わる姿勢も変わらないのだということ非常に強く感じました。

また、ソーシャルワークが何かもまだ良く分かっていないような2年目の私に何ができるのか、活動の前はそればかりが頭にありましたが、今では自分にも何かできると意図的に“思い

込むこと”にしています。もちろん、思い込むだけではだめですが。私が参加してしまったら反対に現地に迷惑をかけるのではないかという不安が最も強かったのですが、“感じる”は誰にでもできるのだと思いました。それほど得るものが多く、重みのある時間でした。

このような貴重な経験をさせていただくことができたのも、職場の皆さんや日本医療社会福祉協会及び大分県医療ソーシャルワーカー協会のご理解・ご協力があり、現地の皆さんのあたたかく熱い想いがあったからだと思います。

次は少しでも成長した私を現地の皆さんにお見せできるように、そして、更に良いご報告ができるように励んでいきたいと思っています。

(独立行政法人国立病院機構 大分医療センター)  
医療社会事業専門員(MSW) 谷山香菜恵

## \*\*\* 6. 災害支援チームからのお知らせ \*\*\*

### 【1. 協力員募集】

#### \*\*\* 現地

- 1). 現在、1日あたり上限2~3名で募集しております。原則として中3日以上、平日の活動が理想的ですが、具体的な日程については、災害支援チームまでお気軽にご相談ください。

**但し、初回参加の方は活動日数を3日以上でご参加お願い致します。**

今後、活動に参加される方で初回参加の方には、簡単な資料を郵送致します。  
ホームページに活動カレンダーを掲載しておりますのでご覧下さい。

#### \*\*\* 事務所

引き続き募集しております。

平日のみの活動ですが、1~2ヶ月に1回でも構いませんので、  
ご協力をお願い致します。

### 【2. 書籍販売】

『東日本大震災 医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅠ』と

『東日本大震災 医療 ソーシャルワーカーの支援のバトンⅡ』の

販売を行っています！

発災から2011年9月30日までの石巻・仙台・大槌町・事務所・災害対策本部の活動の記録を『バトンⅠ』に、2011年10月から2012年12月までの災害対策本部、石巻市での仮設住宅支援・在宅被災世帯支援・市民活動支援、現地SWとの協働の記録を『バトンⅡ』にまとめました。ぜひご覧になってください。

尚、売上金の全額を皆様からの寄付として、本活動の資金に充てさせていただきます。

※ご注文は注文用紙で承ります。

ボタン I とボタン II とを同時にご購入される場合は合計冊数で送料を頂戴致します。送料表でご確認下さい。

(注文用紙はホームページからダウンロードできます)

ボタン I : URL: [http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing\\_detail.php?@DB\\_ID@=45](http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing_detail.php?@DB_ID@=45)

ボタン II : URL: [http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing\\_detail.php?@DB\\_ID@=47](http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing_detail.php?@DB_ID@=47)

### 【3.facebook】



facebook でも情報をお伝えしています。現地や災害対策本部の日々の様子をお伝えしています。応援よろしく願いいたします。

\*\*\* URL \*\*\*

<http://ja-jp.facebook.com/pages/公社日本医療社会福祉協会-災害対策本部/156327867812970>

### 【4.YouTube】

昨年の災害支援活動の様子を前事務所担当の一原さんがVTRにまとめて下さいました。現在はサポートセンターを活動拠点としております。当時の様子を知っていただく貴重な資料として、YouTubeにアップしておりますので、是非ご覧ください。「医療ソーシャルワーカー災害支援」で検索すると見つかります。



\*\*\* URL \*\*\*

<http://www.youtube.com/watch?v=vn34I9h5rJ4&feature=youtu.be>

## \*\*\* 7. 事務所より \*\*\*

\*\*\* 10/21 金子 小夜子 (災害支援チーム事務所)

講演会が終わって一息つきました。

また、10月、11月のご応募を締切ったことを報告させていただきます。

#### <編集後記>

11号から12号までの間隔が少し長くなってしまいました。楽しみにしておられた皆様にはご心配をおかけしたのでは?など考えておりました。本ニュースがより良きものとなるよう検討を重ねています。現地の支援員の募集も大々的に行われました。みんなで少しづつ力を併せてMSWの大きな力になればと願っています。

\*\*\* 東日本大震災 MSW 災害支援ニュース

(編集担当 鴨島病院 医療ソーシャルワーカー一同)  
東日本大震災 MSW 災害支援ニュース  
平成 25 年 10 月 21 日 第 3 卷 12 号  
作 成 徳島県医療ソーシャルワーカー協会